

広島大学麻酔科専門研修プログラム



1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

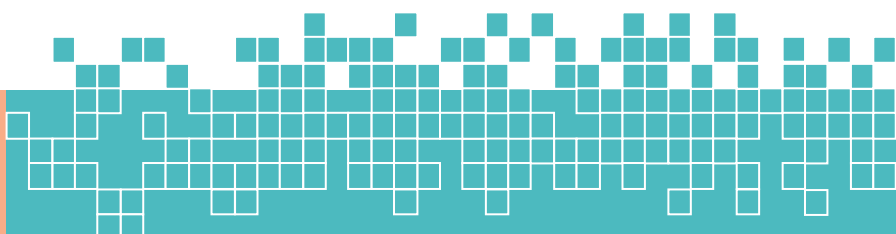
② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能のように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

広島大学病院を中心に広島県内の各関連病院の特徴を生かした研修を通して、麻酔管理全般と救急・集中治療、ペインクリニック、緩和ケアなど麻酔専門医として必要な知識・技術をすべて網羅できるプログラムとなっている。さらに、広島市内だけでなく県内各地の連携施設で研修を行うことで、広島県全体の手術医療を理解できるプログラムでもある。

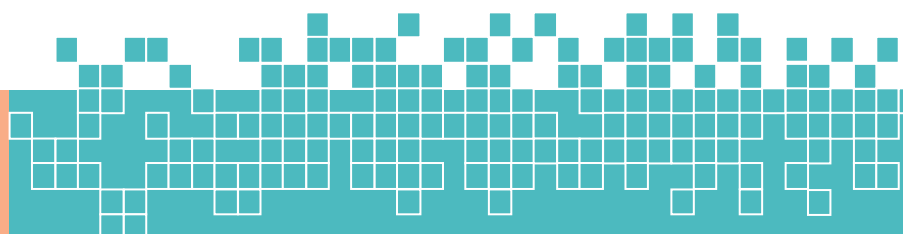
本研修プログラムでは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。





3. 専門研修プログラムの運営方針

- 専門研修基幹施設である広島大学病院には原則として6ヶ月間の研修を行うものとする。
- 大学スタッフと各関連病院部長で構成するプログラム管理委員会において、各専攻医の研修到達度を定期的に確認し、不足している領域の研修が確実に進むように調整する。
- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。
- 各専攻医の希望や意見を積極的に取り入れてプログラムの修正を図る。
- すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが、心臓血管麻酔を中心に学びたい者へのローテーション（ローテーション例B）、ペインクリニック、緩和ケアを学びたい者へのローテーション（ローテーション例C）、集中治療を中心に学びたい者へのローテーション（ローテーション例D）など、専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する。
- 地域医療の中での手術医療を研修する目的で、県東部や県北部の連携施設でのローテーション研修も行う。





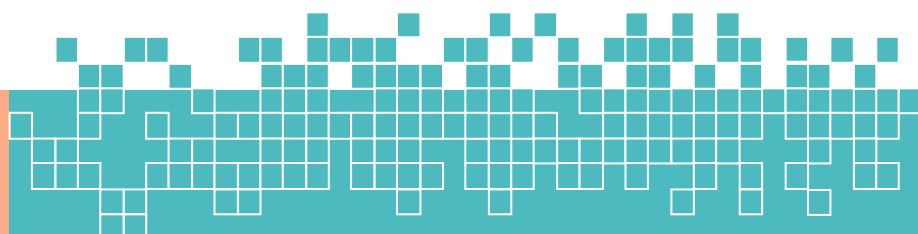
研修実施計画例（状況により研修施設，研修時期，研修期間は変動する）

	A (標準)	B (心臓血管 麻酔)	C (ペイン・緩和ケア)	D (集中治療)
初年度	本院	本院	本院	本院
2 年度	県立広島病院 広島総合病院 安佐市民病院 中国労災病院 尾道総合病院 広島赤十字・原爆病院	本院 県立広島病院 広島総合病院 安佐市民病院	尾道総合病院 広島赤十字・原爆病院	安佐市民病院 中国労災病院
3 年度	呉医療センター 中国労災病院 東広島医療センター 尾道総合病院 三次中央病院 マツダ病院 JR 広島病院 吉田総合病院 県立リハセンター 舟入市民病院 中電病院	土谷総合病院	尾道総合病院 広島赤十字・原爆病院	安佐市民病院 中国労災病院
4 年度	本院	土谷総合病院	本院	本院

週間予定表

本院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み
午後	手術室	術前外来	手術室	休み	手術室	休み	休み
当直			当直				



① 専門研修基幹施設

●広島大学病院



研修プログラム統括責任者：堤 保夫

専門研修指導医：堤 保夫（麻酔）

仁井内 浩（麻酔，ペインクリニック）

佐伯 昇（麻酔）

中村隆治（麻酔，ペインクリニック，緩和ケア）

加藤貴大（麻酔，集中治療）

近藤隆志（麻酔，心臓血管麻酔）

三好寛二（麻酔，心臓血管麻酔）

神崎理英子（麻酔）

大月幸子（麻酔）

片岡宏子（麻酔）

向田圭子（麻酔）

白石成二（麻酔）

認定病院番号：47

麻酔科管理症例数：5623 症例（2022 年度）

特徴：多くの指導医のもとで多彩な麻酔症例を経験することが可能である。術中管理だけでなく、術前患者のリスク評価も丁寧に行っており、しっかりとした術前評価の研修が可能である。さらに術後鎮痛も麻酔科として積極的に介入しており、術後患者の集中治療と合わせて術後管理もしっかり研修することが可能である。

② 専門研修連携施設 A

● 県立広島病院



出典：http://www.hph.pref.hiroshima.jp

研修実施責任者： 福田秀樹

専門研修指導医： 福田秀樹 (麻酔, ペインクリニック)

金子高太郎 (麻酔)

梶山誠司 (麻酔, ペインクリニック)

木村美葉 (麻酔)

川井和美 (麻酔)

新畑知子 (麻酔)

岡田あゆみ (麻酔)

柘田庸子 (麻酔)

横田真優子 (麻酔)

半田 舞 (麻酔)

認定病院番号：220

麻酔科管理症例数：4926 症例 (2022 年度)

特徴：本プログラムの中でも特に新生児を含む小児麻酔症例が多いのが特徴で、他施設では経験できない症例を多く研修できる。

●広島市立北部医療センター安佐市民病院（以下、安佐市民病院）



出典：<http://www.asa-hosp.city.hiroshima.jp>

研修実施責任者：田中裕之

専門研修指導医：田中裕之（麻酔，心臓血管麻酔，集中治療，緩和ケア）

安氏正和（麻酔，心臓血管麻酔，集中治療）

古屋美香（麻酔，集中治療）

朝山京子（麻酔）

笹田将吾（麻酔）

認定病院番号：388

麻酔科管理症例数：4284 症例（2022 年度）

特徴：2022 年 5 月 1 日より新病院（広島市立北部医療センター安佐市民病院）となり、広島市北部の高度急性期病院としての中心的役割を果たす。広島県北西部から島根県に及ぶ広域な診療圏を有している。救命救急センターを新たに開設し、ドクヘリ事業にも参画する。手術室は 11 室（ハイブリッド 1 室、バイオクリーンルーム 2 室、ロボット支援手術専用 2 室）のほか、IVR センター、内視鏡センターで全身麻酔に対応できる設備を有している。脳神経外科（血管内手術が 50%）、心臓血管外科の緊急手術が多く経験できる。

手術麻酔以外に救急・集中治療にも力を入れており、周術期管理チームと共同してチーム医療と周術期の患者管理が研修できる。

●広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院
(以下、広島総合病院)

診療時間	休診日	面会時間
外来受付時間 8:30~11:30 (一部診療科を除く)	土・日・祝 12月30日~1月3日	13:00~20:00 ICU・救命救急病棟の面会時間 はこちら

出典：<https://hirobyo.jp>

研修実施責任者：大下恭子

専門研修指導医：大下恭子（麻酔）

新澤正秀（麻酔）

本多亮子（麻酔）

村上俊介（麻酔）

石橋優和（麻酔）

原木俊明（麻酔）

認定病院番号：421

麻酔科管理症例数：3802 症例（2022 年度）

特徴：

幅広い手術症例の麻酔管理，ペインクリニックの研修や末梢神経ブロックのトレーニングも可能である。

●独立行政法人国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター (以下、呉医療センター)



出典：<https://kure.hosp.go.jp>

研修実施責任者： 讃岐美智義

専門研修指導医： 讃岐美智義（麻酔，ペインクリニック，集中治療）

栗田茂顕（麻酔，心臓血管麻酔）

植木雅也（麻酔）

桑原佳恵（麻酔）

保田公子（麻酔，心臓血管麻酔）

釋舎和子（麻酔，集中治療）

認定病院番号：436

麻酔科管理症例数：3872 症例（2022 年度）

特徴：

県内で中心的な役割を果たす手術施設。また、地域医療の中核をなす施設であり、がんセンターでもあるため地域医療とがん診療の両面からの麻酔科研修が可能。研究施設も併設しているため臨床研究にくわえて基礎研究も可能。

●広島県厚生農業協同組合連合会 尾道総合病院
(以下、尾道総合病院)



出典：http://onomichi-gh.jp

研修実施責任者：中布龍一

専門研修指導医：中布龍一（麻酔，ペインクリニック）

瀬浪正樹（麻酔，ペインクリニック）

ト部 智晶（麻酔）

黒田皓二郎（麻酔）

認定病院番号：297

麻酔科管理症例数：3005 症例（2022 年度）

特徴：

がん診療連携拠点病院で、救命救急センターや周産期母子医療センター等を併設している地域の中核病院である。多彩な予定手術の麻酔は勿論、緊急・準緊急手術の麻酔を幅広く経験できる。また、手術麻酔における各種末梢神経ブロックおよびペインクリニック・緩和領域の主なブロックの習得が可能である。

●広島赤十字・原爆病院

日本赤十字社 広島赤十字・原爆病院

検索 例：セカンドオピニオン

文字サイズ 小 中 大

ENGLISH

本サイトは音声ブラウザに対応しています

Japanese Red Cross Society

常に地域の皆様に
信頼され愛される病院であるように。
Hiroshima Red Cross Hospital & Atomic-bomb Survivors Hospital
広島赤十字・原爆病院

外来のご案内
Outpatient

入院のご案内
Hospitalization

診療科・部門
Clinical department and section

病院のご案内
Hospital guide

出典：<https://www.hiroshima-med.jrc.or.jp>

研修実施責任者：右田貴子

専門研修指導医：右田貴子（麻酔）

藤本真弓（緩和ケア）

岡田邦子（麻酔）

三木智章（麻酔）

江木暁子（麻酔）

岡野菜奈子（麻酔）

認定病院番号：631

麻酔科管理症例数 3013 症例（2022 年度）

特徴：

他科との連携を通じ、周術期の全身管理を幅広く、多くの経験を積むことができます。手術室における研修だけでなく、術前診察外来とペインクリニック外来で多角的に診察を学べます。19床の緩和ケア病棟を有しており、本格的な緩和ケアの研修も可能です。

●独立行政法人労働者健康安全機構中国労災病院 (以下、中国労災病院)

独立行政法人労働者健康安全機構
中国労災病院

お問い合わせ 交通アクセス 文字の大きさ 標準 拡大

電話 0823-72-7171 ENHANCED BY Google

病院紹介 診療案内 診療科・診療支援部門 医師臨床研修 外来診療医師一覧 / PDF

患者中心の良質な医療の提供と
地域医療への貢献

産科病室
リニューアルオープン!

面会時間・駐車場料金		詳細はこちら
一般病棟	平日 13:00～20:00	面会制限の お知らせ
	休日 10:00～20:00	

受付時間・診療時間・休診日		詳細はこちら	
受付時間 (初診・再診)	8:15～11:00	診療時間	8:15～17:00
休診日	土曜・日曜・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)		

※ 救急の場合は24時間受付

出典： <https://www.chugokuh.johas.go.jp>

研修実施責任者： 日高昌三

専門研修指導医： 日高昌三（麻酔，集中治療）

中川五男（麻酔，集中治療）

岡田泰典（麻酔）

古賀知道（麻酔）

認定病院番号：372

麻酔科管理症例数：2544 症例（2022 年度）

特徴：

当院の後期研修は手術麻酔に加えて集中治療，救急医療を学べる絶好の機会を提供する。後期研修医も含めスタッフ全員が2ヶ月間ずつ救急専門医とともに日中の集中治療室，救急外来を管理する。後期研修医は2年間に4～6ヶ月程度を集中治療室として過ごす。麻酔の知識や技術が集中治療、救急医療に応用できることを知り、周術期全体を幅広く俯瞰できる機会を得ることができ、患者急変時や救急現場で必要な技術や臨床での自信や統率力は見違えるものになると考えている。

手術麻酔は整形外科手術を筆頭に全科にわたり、週4日のペインクリニック外来では神経ブロックや薬物療法を中心とした治療を学ぶ。学術面では主要な学会の参加に加え、論文の執筆を積極的に勧めるよう指導している。

●独立行政法人国立病院機構東広島医療センター (以下、東広島医療センター)



出典：<https://higashihiroshima.hosp.go.jp>

研修実施責任者：橋本 賢
専門研修指導医：橋本 賢（麻酔）
 奈尾幸子（麻酔）
 近藤洋司（麻酔）
 中谷圭男（麻酔）

認定病院番号：969

麻酔科管理症例数：2397 症例（2022 年度）

特徴：

偏りのないバランスのとれた麻酔症例の研修が可能である。

●市立三次中央病院

臨床研修指定病院 地域がん診療連携拠点病院

● ご意見・お問い合わせ ● アクセス ● サイトマップ 文字サイズの変更

 **市立三次中央病院**
MIYOSHI CENTRAL HOSPITAL

ENHANCED BY Google **0824-65-0101(代表)**

外来のご案内	入院のご案内	診療科・部門	病院の概要	採用・見学情報
--------	--------	--------	-------	---------



患者様、ご家族の皆様へ

医療関係者の皆様へ

地域の急性期・高度医療をになうために日々努力し安全で安心な医療の提供に努めています

出典： <https://www.miyoshi-central-hospital.jp>

研修実施責任者： 田嶋 実

専門研修指導医： 田嶋 実（麻酔，集中治療）

松浪勝昭（麻酔）

認定病院番号：717

麻酔科管理症例数：1454 症例（2022 年度）

特徴：

備北地区を中心とした地域医療と広島大学ふるさと枠の中核病院として多くの若手の先生の研修の場となっており、各科の敷居が低く、術前評価のみならず周術期管理で関連各科と連携している。当院では、1. 専門医取得に際して、必要経験症例のうち心臓血管外科以外の手術を概ね経験可能である、2. 大腿骨近位端骨折などの予備力の低い超高齢者特有の手術とその周術期管理が豊富に経験でき、これを通じて重症患者の麻酔の基礎を学ぶことができる、3. 術後症例のみならず、救急外来経由や院内紹介の症例の集中治療にも力を入れており、研修を通じて集中治療医の素地を修練することが可能である、の3点を特徴としている。

●土谷総合病院



出典：<http://www.tsuchiya-hp.jp/tsuchiya>

研修実施責任者：和泉博通

専門研修指導医：和泉博通（麻酔、心臓血管麻酔）

北川麻紀子（麻酔、心臓血管麻酔）

認定病院番号：354

麻酔科管理症例数：1300 症例（2022 年度）

特徴：

当院の特徴のひとつは、循環器疾患に対する専門性の高い医療を提供していることです。県内有数の心臓血管手術症例数を誇り、短期間に集中して多くの多種多様な症例を経験することができ効率的な麻酔科研修が可能です。小児先天性心疾患の手術も行っており、他院では経験のできない貴重な症例を経験することが可能です。また、心臓麻酔の循環管理には欠かせない経食道心エコーも数多く経験することができ、実力をつければ日本周術期経食道心エコー認定試験（JB-POT）や心臓血管麻酔学会専門医の合格も可能です。

もうひとつの特徴は、当院が腎不全患者治療の草分け的な病院であり、県内有数の透析施設を併設していることです。麻酔科管理症例の15%前後が透析患者であり、術中は慎重な水分管理が要求されるが、その時にも心臓麻酔の知識が非常に役立ちます。

●マツダ病院



サイト内検索 検索 文字サイズ 小 中 大

お問い合わせ ☎ 082-565-5000

トップページ

外来診療

入院・面会

健診

診療科・部門

地域連携

病院概要



出典：<https://hospital.mazda.co.jp>

研修実施責任者： 城山和久

専門研修指導医： 城山和久（麻酔）

難波恒久（麻酔）

権 理奈（麻酔）

認定病院番号：804

麻酔科管理症例数：1602 症例（2022 年度）

特徴：

膝，肩の整形外科手術症例数が多く，四肢の末梢神経ブロックの研修が可能である。また，日帰り麻酔も行っている。

●JR 広島病院



出典： <http://www.jrhh.or.jp/>

研修実施責任者： 久保隆嗣（麻醉）
専門研修指導医： 久保隆嗣（麻醉）
平良裕子（麻醉）
鈴木麻倫子（麻醉）

認定病院番号： 806

麻醉科管理症例数： 1271 症例（2022 年度）

特徴：

一般的な麻醉科研修に加えて、当院は広島駅前という利便な立地から研修環境も魅力的である。

●広島県立障害者リハビリテーションセンター (以下、県立リハセンター)



出典：<https://www.rehab-hiroshima.org/>

研修実施責任者：安田季道

専門研修指導医：安田季道（麻酔）

認定病院番号：1020

麻酔科管理症例数：680 症例（2022 年度）

特徴：

整形外科と泌尿器科に特化した病院である。人工関節置換術が年間 200 例くらいあり、その他、脳性麻痺や自閉症、まれな症候群などの手術もある。

●広島県厚生農業協同組合連合会 吉田総合病院
(以下, 吉田総合病院)



出典：<http://yoshida-gene-hospi.jp/>

研修実施責任者：田村秀樹

専門研修指導医：田村秀樹（麻酔）

認定病院番号：748

麻酔科管理症例数：641 症例（2022 年度）

特徴：

高齢者の整形外科症例が多くある。

●中国電力株式会社 中電病院



出典：<https://www.energia.co.jp/hospital/>

研修実施責任者： 讃岐美佳子（麻醉）

専門研修指導医： 藤井聖士（麻醉）

讃岐美佳子（麻醉）

認定病院番号：271

麻醉科管理症例数：889 症例（2022 年度）

特徴：

主に整形外科の人工股関節置換、婦人科内視鏡手術、一般腹部外科

② 専門研修連携施設 B

●舟入市民病院



出典：<http://funairi-hospital.jp/>

研修実施責任者：佐々木宏

専門研修指導医：佐々木宏（麻酔，ペインクリニック）

白石成二（麻酔）

神崎理英子（麻酔）

認定病院番号：1162

麻酔科管理症例数 432 症例（2022 年度）

特徴：

小児救急医療拠点病院，第二種感染症指定医療機関に指定されている。鼠径ヘルニア急性虫垂炎，胆石症など良性疾患の麻酔が多い。

4. 募集定員

18名

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（該当年の9月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、広島大学麻酔科専門研修プログラム website, 電話, e-mail, 郵送のいずれの方法でも可能である。

広島大学病院 麻酔科 堤 保夫 教授

〒734-8551 広島県広島市南区霞 1-2-3

TEL 082-257-5267

E-mail masuika@hiroshima-u.ac.jp

Website <http://www.anesth.hiroshima-u.ac.jp/>



6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

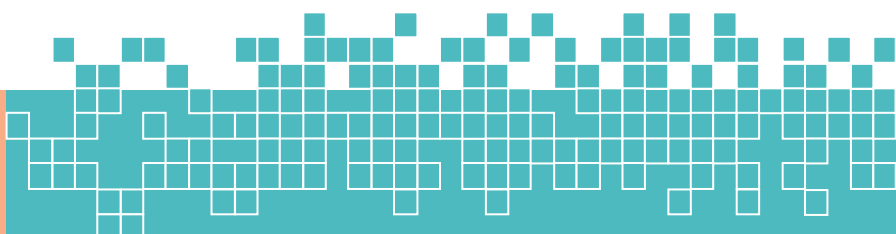
麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティ領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。





③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

7. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた 1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

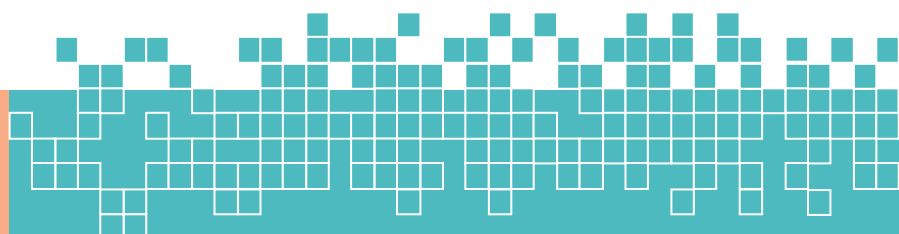
専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2 度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修 2 年目

1 年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪い ASA 3 度の患者の周術期管理や ASA 1～2 度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修 3 年目



心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる。また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する。

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる。



9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットによるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットをもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。



12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

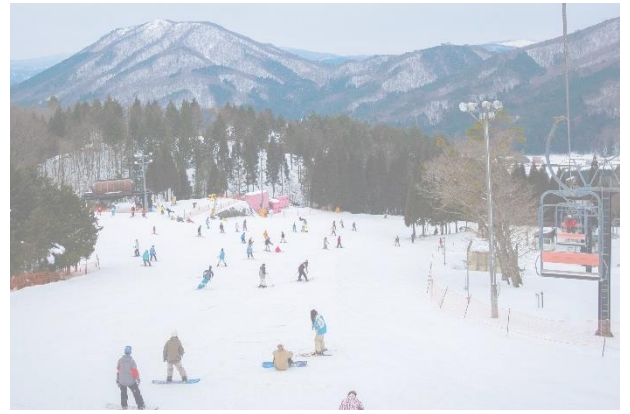
- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して2年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない。ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。



13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての市立三次中央病院、JA尾道総合病院など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します。

